

- ・黄化葉巻病耐病性品種「有彩(ありさ)」販売スタート
- ・朝日工業㈱の取組み神川農場の活動案内
- ・混合堆肥複合肥料「エコレット」の開発と今後
- ・地域レポート

## 黄化葉巻病耐病性新品種「有彩(ありさ)」販売スタート



**有彩  
014**



**有彩  
017**

### ○背景

近年、トマト産地において問題になっているのは、高温による着果不良と黄化葉巻病をはじめとする病気である。病気に対処しようとすると虫等の侵入を防ぐ為に0.4mm以下のネットを張る必要がある。しかし、この処置を実施すると通気性が悪くなりハウス内が高温となり着果不良が発生する。

そこで、各種苗メーカーに求められたのは耐病性の強い品種であった。当社は、いち早く黄化葉巻病耐病性品種「アニモ」を販売することとなり、感受性品種では栽培できない圃場でもトマトを栽培できるようになった。

しかし、トマトの需要が高まるに連れて消費者からより食味がよい品種を求められ他社でも耐病性品種を販売するようになり競争が激しくなった。

### ○有彩とは

アニモが完成した後、トマトチームは次に取り組む育種テーマに食味の向上を選んだ。アニモで評価が高かった果実が硬く、日持ちが良い点はそのままに、食感や口当たりの改善と糖度の向上を目指した。そして生まれた新品種が「有彩」である。有彩には有彩 014 と有彩 017 がありそれぞれ特徴を持っている。

### ○品種名「有彩」の由来

目に鮮やかな「色」がトマトの特徴。この新品種は赤く熟してから収穫ができ、家庭の食卓に彩りを添えることができる。

また、トマトの大産地である有明海より「有」の字と、当社農場がある「彩の国埼玉」より「彩」の字を取り「有彩(ありさ)」。さらに、ありさとはアルファベット表記ではヘブライ語で「楽しみ」に由来する英語の女性名であることから、このトマトを楽しんでいただければという願いも込めて名づけている。

### ○有彩 014 と有彩 017 の使い分け

有彩 014 は高温期でも着果肥大が良く、初期収量性が高いので短気抑制の作型に特に適している品種である。草勢は中程度でスタミナがあり上段まで着果肥大がよい。一方の有彩 017 は、アニモよりも早生性が強く草勢が強い。後半まで玉伸びさせやすいので特に長期越冬の作型に適している品種である。

今後、朝日工業では有彩 014、017 でトマト栽培の省力化を補っていければと考えている。

### お問い合わせ

朝日工業株式会社 種苗部

TEL:0274-52-6304

# 神川農場の活動案内

研究効率化を図る為に始動した

## 神川農場—

2013年春より敷地面積約3haの神川農場が始動して3度目の春を迎えました。

神川農場では新規系統の育成・能力検定、自社・他社品種を含めた展示栽培、栽培技術の研究に加えて自社肥料を用いた肥料試験や、特別栽培に対応した展示方法等も実施しております。



神川農場(約3ha)



フィールドデーの展示圃場。お客様からの意見に触れる良い機会となっています。

現在、神川農場では様々な品目の開発・育種が行われています。果菜類では冬至向け出荷を狙ったカボチャ抑制栽培の安定生産を実現する「プリメラ」、大玉トマトは「アニモ」の後継品種である「有彩(ありさ)」、キュウリでは褐斑病に強い「グラッヂエ」の品種育成を実施しています。台木では土壌から伝染する病気を防ぐ為にトマト・メロンといった台木育種を実施しております。葉菜類ではべと病に強いホウレンソウ等の品種育成を実施しております。これらの成果を外部のお客様に見ていただく為に毎年春と秋の年2回フィールドデーを開催しております。毎回お客様から様々な意見を頂き開発に取り入れスピードアップ等も図っています。こういった活動で今後ますますの品種開発に力を入れていきます。

## 神川農場へのアクセス

〒367-0232

埼玉県児玉郡神川町大字新里字東北原 863-2

(朝日工業㈱関東工場から車で約 10 分)

### ●お車でお越しの場合

関越自動車道 本庄児玉インターチェンジより車で約 20 分

マップコード 20133425\*3

### ●電車でお越しの場合

上越・長野新幹線 本庄早稲田駅下車 タクシーで約 25 分



# 混合堆肥複合肥料「エコレット」の開発と今後

## ○背景

平成20年以降の肥料価格の高騰は現在の農業経営に非常に大きな影響を与えている。今後の農業生産を安定的に行っていくためには肥料の低コスト化は緊急の課題である。この課題の中で、国内で発生する有機資源を有効活用することは非常に重要であると考えられる。特に、堆肥については既に農業現場で利用されてはいるが品質やハンドリング、臭気の問題から、その利用には制限があるのが現状である。一方、家畜ふん堆肥の肥効については、畜種毎に、有効化される窒素を有機物の分解性に基づいて評価する方法が開発され、農業現場において適切な肥効を有する堆肥を利用できる技術も確立されてきた。

## ○エコレットとは

エコレットは「混合堆肥複合肥料」の規格新設を受けて、JA全農、各県研究機関と共同開発した堆肥の利用促進を図れる新しい資源循環型の肥料である。主原料となる堆肥は主に密閉縦型堆肥化装置で製造されたものを選抜し、年間を通じて水分、成分変動が少ない良質な堆肥を使用している。また、原料として使用する前に、堆肥2次保管ヤードに置いて、一定期間の保管を行うことで品質を均質化させている。さらに、農業現場で問題となる臭気についても様々な対策を行い、低減化を図っている。このように、エコレットは製品に使用する堆肥を長年かけて調査、厳選し、安定的な品質を確保する方法を確立することによって開発された。



エコレットのラインナップ

## ○エコレットのメリット

エコレットのメリットは他の有機複合肥料と比較して低コストであることはもちろん、作物生産に重要な土作りに有用で、高成分の有機肥料(品質の高い堆肥)を圃場へ容易に還元できることにある。また、埼玉県農林総合研究センターとの研究の結果、エコレットは施肥と播種をほぼ同時にできるので施肥作業の効率化を図ることも可能である。また、成型した肥料であることから施肥に労力を有する果樹園や中山間地でも利用しやすく、臭気を低減していることから、都市近郊地域においても利用可能である。連用施肥の効果は下記ポット試験の結果から、5作目には上回る結果が出ているおり連作の効果が認められた。(下表参照)

## ○エコレットの課題と今後

エコレットは今までの研究機関、JA全農との取組みの結果、他の有機複合肥料と比較しても遜色ない収量、品質を得ることができている。しかし、農業現場では肥料に含有できる堆肥の量が制限されることから一度の施肥では堆肥としての施用量が少なくなるとの意見もある。この課題を解決するために、堆肥の使用量の制限を解除する国への働きかけや、他の原料と組み合わせることによって複合効果が得られるか等を検討し、より利用しやすい肥料に改善していきたいと考えている。また、現在、コーティング肥料等と組み合わせた元肥一発型肥料の販売を始めている。圃場における連用試験や土壤環境に与える影響等を評価してエコレットが有する付加価値の解析も行っている。今後は、これらのデーターを農業現場に還元してエコレットのさらなる販売拡大を図っていきたいと考えている。

表:連用試験結果 5作目

試験銘柄	発芽率 (%)	草丈 (cm)	新鮮重		乾物重 (%)
			(g)	指數	
無肥料	82	6.5	6	8	0.60
化成肥料	78	18.6	67	100	4.30
豚ふん堆肥	96	13.5	42	62	3.82
エコレット055	87	20.4	90	134	5.41
エコレット553	84	19.7	89	133	5.88

## お問い合わせ

朝日工業株式会社 営業1部

Tel:0274-52-2732

# 域 地 レポート

## “カボチャ立ち栽培”に取り組む群馬県高崎市JAはぐくみを訪ねて—

JJAはぐくみは群馬県の中央部よりやや西に位置し、高崎市西部を管内としている。今回取材した旧群馬町地域はナス・キュウリを栽培する技術力の高い生産者が大勢いるが2014年2月の雪害で存続の危機に直面した。現在は新たな取組み、「カボチャ立ち栽培」に取り組んでいる。

### ○取り組むキッカケ

JJAはぐくみでは、ハウス栽培でナス・キュウリを栽培する生産者が多かった。しかし、2014年2月に発生した雪害によりハウスの倒壊が発生。後継者がおらず、高齢による体力の低下を考えると再びハウスを建てて農業をやる気持ちになれなかった。そんな時、朝日工業のフィールドデーに参加した際に「カボチャ立ち栽培」というカボチャの栽培方法を知った。キュウリのように暖房を使用する前に収穫を終えて高品質のカボチャを生産する。これならばできるのではないかという気持ちが沸いてきた。川野さんはJA担当者と生産者数名で取組み始めることとなった。

### ○カボチャ立ち栽培について

JJAはぐくみにおける立ちカボチャ栽培で採用されている品種は当社「プリメラ115」。作型は以前栽培していたナス・キュウリの作型にカボチャを取り入れた。(以下参照)

立ちカボチャ栽培の作型

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	●		▲			■		●	▲		■	

カボチャ立ち栽培の最大のメリットはカボチャが一年で一番値が高い冬至の時期を狙って収穫できる点にある。現在、冬至のカボチャは多くが海外からの輸入に頼っている。この時期に国産カボチャが出せるというのは強みとなる。また、通常の栽培についてしまう「グランドマーク」がつかず形の美しい高品質なカボチャを栽培することができる。加えて、プリメラ115の特徴である着果の良さ、肥大性も立ち栽培をサポートする。



カボチャ立ち栽培に取り組む川野さん

プリメラ115は歩留まり率が非常に高く川野さん曰く8割以上可販することができてしまうと言う。また、肥料についても他のカボチャ品種と比較すると少なく済む。川野さんの圃場においては「有機アグレット825eco」を4袋(窒素成分:6.4kg)施用し、後は様子を見て「はつらつ君666」を施用して収穫まで持っていくことができた。

### ○今後の展望

現在、カボチャの販売については市場出荷と直売所への出荷で対応している。市場への出荷は基本的にA品のみの出荷として10kg箱で出荷している。A品のみを出荷するのは強いこだわりがある。「大産地とくらべて我々は作付け面積で勝つことは出来ない。しかし、この地域の施設生産者の技術は高い。なので、秀品率を高めて皆が稼げるようになれば地域全体の農業が活気付く。妥協せずにやつていけばはぐくみのカボチャが求められる。だから、今、頑張っている。」とのこと。今後の展望としては大きく2つ考えているとのこと。1つは1玉の大きさが安定して2~2.5kgを超えるカボチャを栽培すること。10kg箱4玉で出荷できれば現在の倍の収入が見込める。もう一つはJJAはぐくみのカボチャをブランド化することである。既に名前も検討してダンボールも準備されているなど着々と準備が進んでいる。JJAはぐくみの「立ちカボチャ栽培」はにわかに活気付きはじめている。

### お問い合わせ



朝日工業株式会社 種苗部



Tel: 0274-52-6304